平成 30 年 7 月 5 日発行　毎月 1 回 5 日発行　オイスカ通巻 658 号　昭和 42 年 12 月 27 日　第三種郵便物認可　別紙

公益財団法人 オイスカ FURUSATO！7 月号

～オイスカ四国のふるさとづくり～

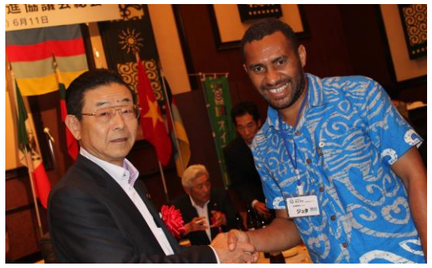
各推進協議会で総会を開催

～会員の皆様と交流～

5月の中旬から6月にかけて四国支部管轄の推進協議会の総会が、各地で行われました。（高知県推進協議会は7月31日に開催予定）事業や会計の報告、計画などが審議されました。四国センターからも研修生が参加し、オイスカ会員の皆様と顔を合わせる良い機会を頂きました。今年は、研修生の国の発表をする機会が多くあり、今年入国した研修生が、自国についての発表をいたしました。日本語で行うので、つたない発表になってしまう場面もありましたが、一生懸命プレゼンテーションをしている姿勢に、参加者の方々も真剣に聞き入ってくれました。また、懇親会でも研修生に声をかけて頂き、よい交流の場となりました。アトラクションでは、研修生の国のダンスを披露し、参加された方達も一緒になって踊り、会場が盛り上がりました。

センターにとって、日ごろオイスカを支援して頂いている方々と話できるのは、非常に良い機会でした。研修生には勿論、スタッフにも励ましの言葉をかけて頂き、今後のオイスカ活動の励みにしていきたいと思います。（矢野）

総会で自国の発表を行いました。緊張しましたが、自分を PR するいい機会でした。



会員の皆様と会話をして、オイスカの事を勉強します。また自分の国のオイスカの活動についても頑張って日本語で話します。

徳島県推進協議会女性部
「藍染体験」

徳島の伝統工芸藍染体験をしました。藍という植物で色を付けます。染色の技術を勉強し、きれいな模様をつけることも出来ました。

中讃推進協議会
「丸亀伝統工芸　うちわ作り」

研修生がうちわ作りを体験させてもらいました。和紙と竹で作る日本の細やかなうちわに感動しました。また丸亀城も散策しました。日本の城を初めてみました。

徳島県推進協議会
「阿波踊り」

総会の締めに会場の皆様と一緒に阿波踊りを踊りました。始めに手ほどきを受け、皆で輪になって会場を盛り上げました。初めてだったので、上げ続けていた腕がすごく疲れました。また8月にも踊りに行きます。

香川一の農家さんへ

6月13日にまつもと農園へ見学に行きました。まつもと農園は、イオン綾川の近くにあります。香川県で一番キュウリを作っています。600ａの土地を持っています。キュウリのほかに、ナス、ネギなどいろいろな野菜を育てています。

まつもと農園では、今年のキュウリは3月5日に植えて、収穫は植えてから、約100日後にできます。キュウリの一番良い長さは21cmで、一番長くて27cmだと教えてくれました。100本のキュウリで、10kg近くあるそうです。キュウリだけでも、たくさんの収入があるので驚きました。

センターとはまた違った農業のことを勉強することが出来るので、見学はいい活動だと思います。将来、自分の畑を持ったら、日本で学んだことをやりたいです。（オードリー）

一人一人が管理をする個人畑でも、キュウリを育てている研修生もいるので、メモを取りながら栽培のコツを聞いています。

販売過程も勉強してきました！

OYL 主催

竹林整備を行います。

開催日　7 月 27 日(金)28 日(土)

＊詳しくは四国センターまで！

環境に興味がある人
来年タケノコが食べたい人
どんな人でも
大歓迎☆

7 月の予定

月日	曜日	イベント名	主催・協力	場所
7 月　5 日	木	四国支部常任幹事会	四国支部	四国支部
7 月　6 日	金	羽床公民館七夕茶会参加 四国 NGO-JICA ラウンドテーブル参加	羽床公民館 四国 NGO ネットワーク	羽床公民館 今治市
7 月　7 日	土	富士山の森づくり参加	本部	山梨県鳴沢村
7 月 10 日	火	森のつみ木広場	高松市環境保全推進課	高松市三谷保育所
7 月 11 日	水	徳島県男女共同参画リーダー連絡会研修生発表	同左記連絡会	徳島市
7 月 27 日 28 日	金 土	竹林整備活動	オイスカヤングリーダーズ	センター周辺竹林
7 月 30 日	月	森のつみ木広場	高松市環境保全推進課	高松市新番町小学校
7 月 31 日	火	高知県推進協議会総会 森のつみ木広場	高知県推進協議会 高松市環境保全推進課	高知商工会館 高松市中央小学校

「FURUSATO！」7 月号　発行
公益財団法人オイスカ四国研修センター
〒761-2103　香川県綾歌郡綾川町陶 5179-1
TEL　087-876-3333　FAX　087-876-3334
E-mail; oiscastc@oisca.org

古本で！
「子供の森」計画サポートプロジェクト
OISCA × VALUE BOOKS

この時期がやってきました。

田植えフェス こんなことしました！

心を込めて苗を植えます

子どもを抱えながらゲームに参加する方も！

元気いっぱいの高校生と田んぼでダッシュ！

キッチンでは 70 人分のご飯を準備

ご飯最高！

主基斎田　お田植まつり

6月17日に主基斎田保存会主催の、主基斎田お田植まつりへ見学に行きました。主基斎田とは、天皇が即位されたとき、献上するお米を作るための水田のことです。大正天皇が即位されたときに、現在の綾川町山田上が主基斎田の場所として選ばれ、このことを後世に残すために、1985年からこのイベントが開催されています。

まず初めに、神様にお祈りをささげてから田植えが始まりました。綾上小学校の児童が、綾川町の「主基斎田お田植歌」を歌い、農業経営高校の女子生徒が、それに合わせて田植えをしました。また豊作を願った踊りも披露され、当時の田植えを再現してくれました。

今年で103回目を迎え、同時に「平成」最後のお田植まつりとなりました。百年近く受け継がれているこの行事は、綾川町の誇りだと思います。研修生の中には初めて田植えを見る人もいて、いい体験になったと思います。（金澤）

どろんこ田植えフェス　開催！

6月23日にオイスカヤングリーダーズ（以下OYL）主催の「どろんこ田植えフェス」を行いました。当日はあいにくの雨でしたが、参加者は約70人でした。また、農業経営高校の生徒、職員の方にもいろいろと手伝っていただきました。

最初にお米の説明を、無農薬で水稲栽培をしている農家の方からしてもらいました。説明を聞いたら、田植え開始。ひもに付いている目印に沿って、苗を植えていきました。また、心を一つにするために、掛け声もしました。「いいですかー？」「植えてくださーい」と声をかけると、「はーい」と大きな声が返ってきました。OYLメンバーの三好さんによるアフリカンドラムの演奏や、綾川町にある「主基斎田お田植歌」などに乗せて田植えをしました。今までにない楽しい田植えになったと思います。田植えの次は、田んぼの中でゲームをしました。二人三脚や玉転がしなど、泥んこになってもらいました。

お昼ご飯は、マレーシアのナシゴレン、ミャンマーのモヒンガーなど、研修生の自国の料理をつくってもらいました。参加者の皆さんに大好評でした。最後は、みんなで歌を歌ったり、ダンスをしました。皆さんに楽しんでもらえました。これからも、オイスカを知ってもらうためにOYLも多くの活動をしたいと思っています。ご参加いただきありがとうございました。（リッチー）

先月号でお知らせできなかった行事等です！

カントリーレポート発表会

5月31日、研修生によるカントリーレポートの発表会をセンターで行いました。カントリーレポートの内容は、各国の基本的な情報（面積、人口、宗教、季節など）や国が抱えている問題、合わせて研修生が日本に来る前にしていたことを中心にまとめます。研修生が自国と日本に来た理由を再認識し、また自国を他の国と比較することを目的としています。普段一緒に生活や研修を行っている研修生ですが、お互いの国についてはまだまだ知らないことばかりです。それぞれの国の状況を知ることで、さらに関係を深めることができました。さらに、このカントリレポートの作成・発表を通して、人に伝える能力を伸ばし、今後はこの経験を活かして、たくさんの方に研修生の国について知っていただけるよう交流をしていきたいと思います。（永山）

メキシコについて発表するビオレタ。東南アジアの国とは少し異なる内容に、皆興味を持って聞いていました。

漢字が得意なトゥ（ベトナム）は、スライドも漢字で作成し、分かりやすく発表することができました。

ゴミ拾いって楽しい！

私達は、5月27日に綾川町男女共同参画会議のゴミ拾いに参加しました。高松西警察署からイオンまでの道を、地域の人と一緒にゴミを拾いました。道には、燃えるゴミ・プラスチックのゴミなどが落ちていましたが、フィジーに比べるとゴミは少ないです。日本人は、ゴミをゴミ箱に捨てるので素晴らしいです。この習慣をフィジーに帰ったら教えたいです。

ゴミ拾いはとても面白いです。ゴミ拾いは、環境をよくします。ボランティアでゴミ拾いをすることは、とてもいいことだと思います。フィジーには、ボランティアでゴミを拾う人がいないので、国へ帰ったらゴミ拾いの大切さ皆に教えたいです。（ジュタ）

インドネシア訪問

5月下旬にインドネシアに行ってきました。これは、技能実習生の面接に企業が赴くのに同行したものです。四国センターでも、少しずつ技能実習生が増えてきている中、実際の送り出しの現場がどのように訓練されているか、見る良い機会になりました。インドネシアのオイスカスカブミ研修センターでは、農業研修がしっかり実施されているので、訪日した後もしっかり技能実習を行うことができます。また、企業側がどのような人材を求めているのか、どういった技能を習得できるのかを監理団体として、共有することが出来ました。送り出し機関と受け入れ団体とをうまく繋げられるようにしていきます。（矢野）

面談方法や実習生に期待すること、外部からの視点は勉強になりました。